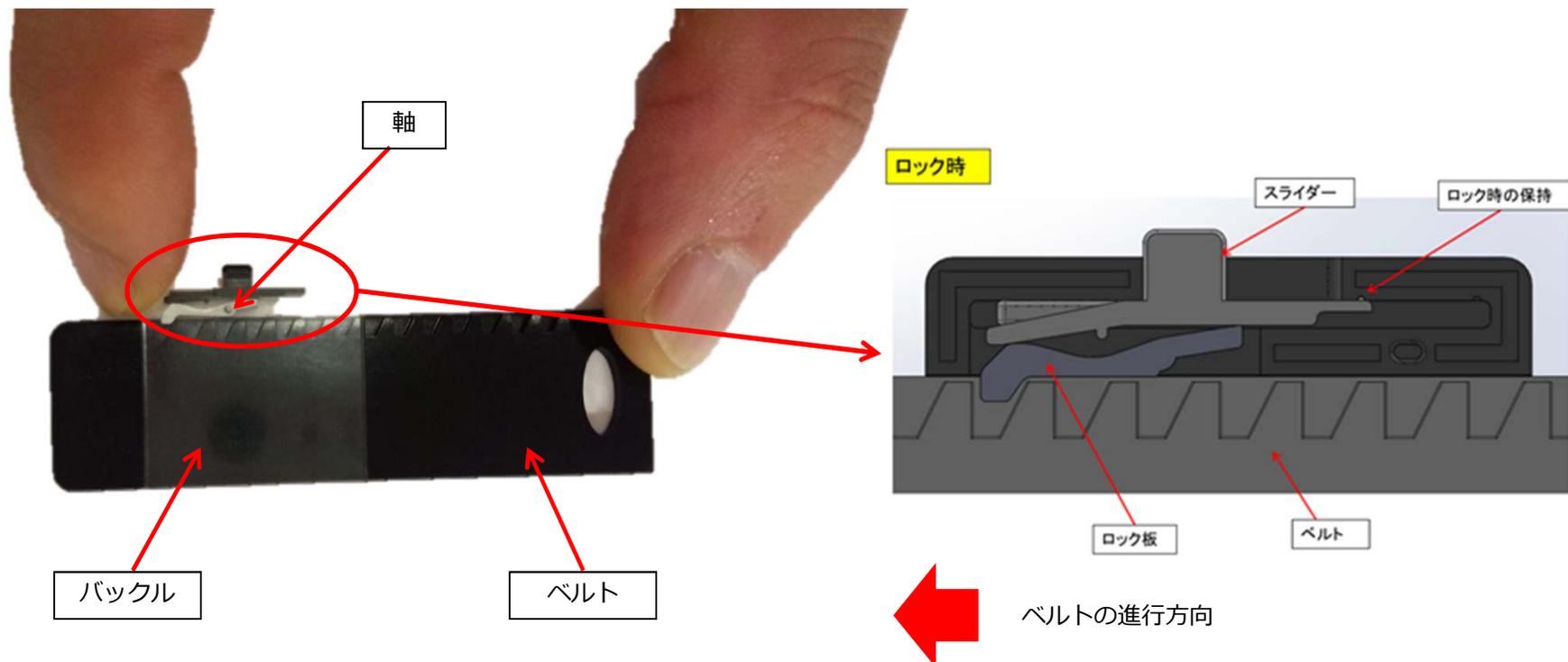


I . FingerZip#3とは

1. 【必須】 FingerZip#3はバックルとベルトから構成されます。

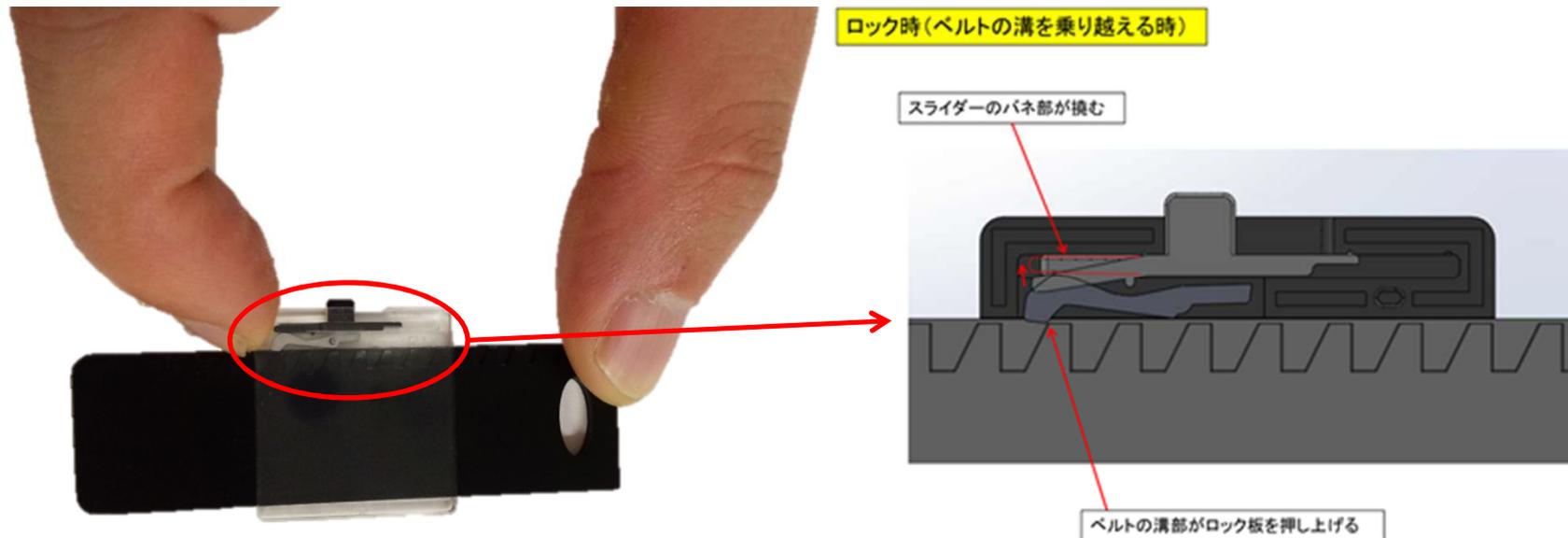
- ベルトには鋸歯状の溝部が形成されます。
- ベルトの溝部にバックルのロック板が係合し、この係合状態では、ベルトは一方向には進みますが反対方向には進みません。
- ベルトがバックル内を進む間、バックルのロック板は軸を中心としたシーソー運動をします。



I . FingerZip#3とは

2. 【必須】 ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けます。

ベルトとバックルを係合させるために、ロック板をベルト側に付勢する力が必要です。通常この種のアジャスターは、ロック板の軸にコイルバネを用いたり、軸のねじれを使ったりして付勢力を得ますが、FingerZip#3ではロック板の上部にバネ(板バネ)を設けることを特徴としています。



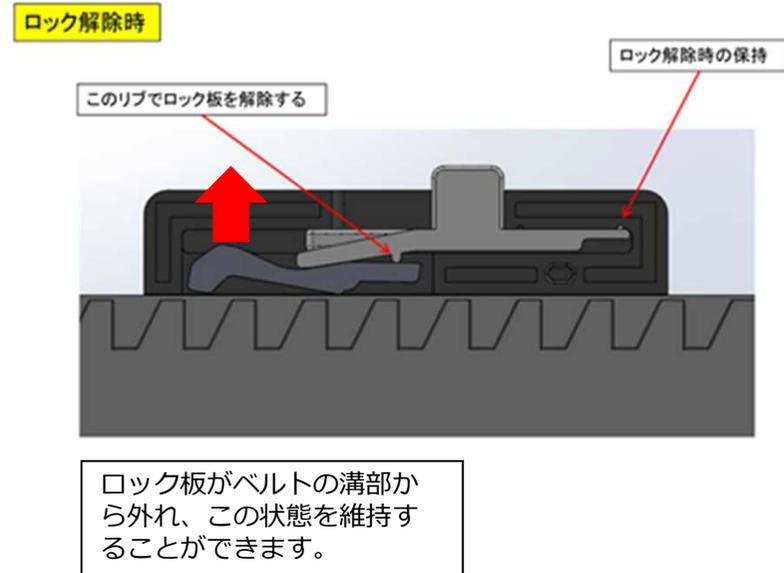
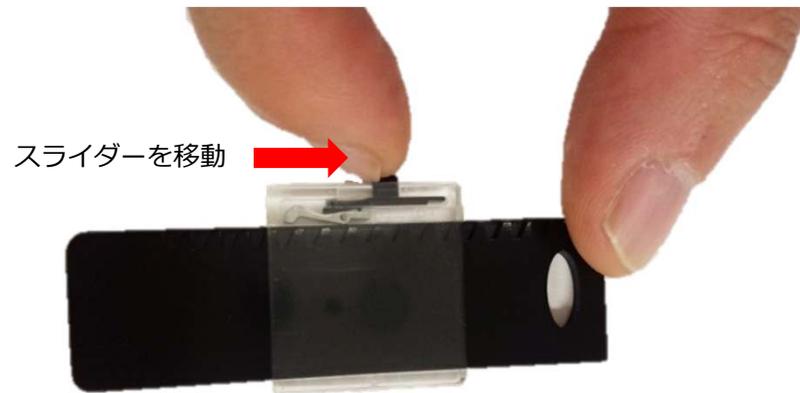
★なぜ、ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けるのか？

従来のアジャスターは、ロック板の軸のねじれを使って付勢力を得ていましたが、バックルを小型化するために軸を細くすると、軸が折れてしまうおそれがあります。軸を金属製にして強度を上げることも考えられますが、付勢力を得るためにコイルバネを用いる必要があり、そのため、小型化が図れません。そこで、小型かつ強度のあるアジャスターを実現するために、ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けることとしたのです。

I . FingerZip#3とは

3. 【任意】 バネをスライド移動可能なスライダーとして設ければ、スライダーを移動することにより、ロックと解除をかんたんに切り替えることが可能となります。

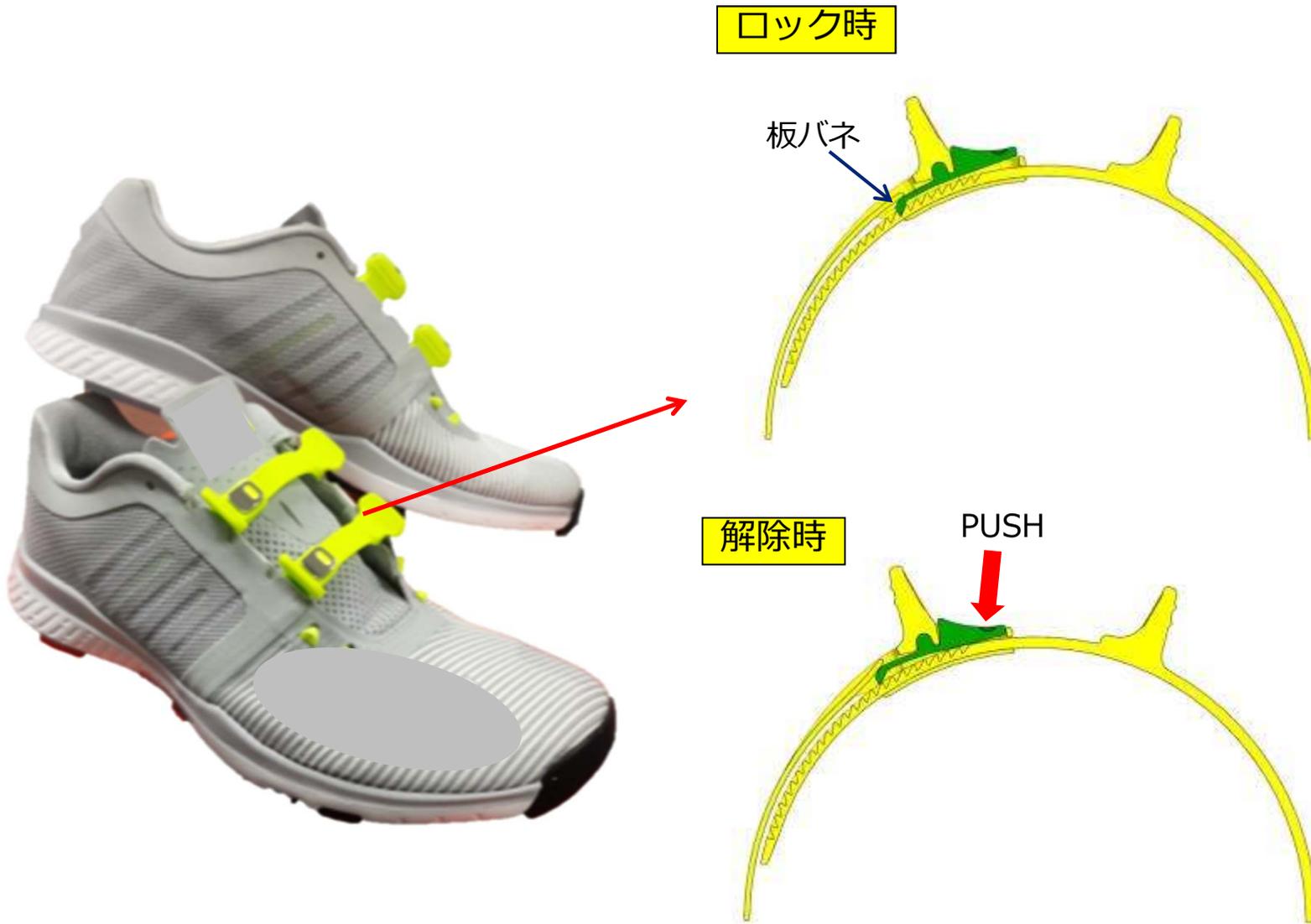
スライダーを移動して解除状態を維持することができるので、片手の指先で簡単にバンドをバックルから引き抜くことができます。



II. 試作例(時計)



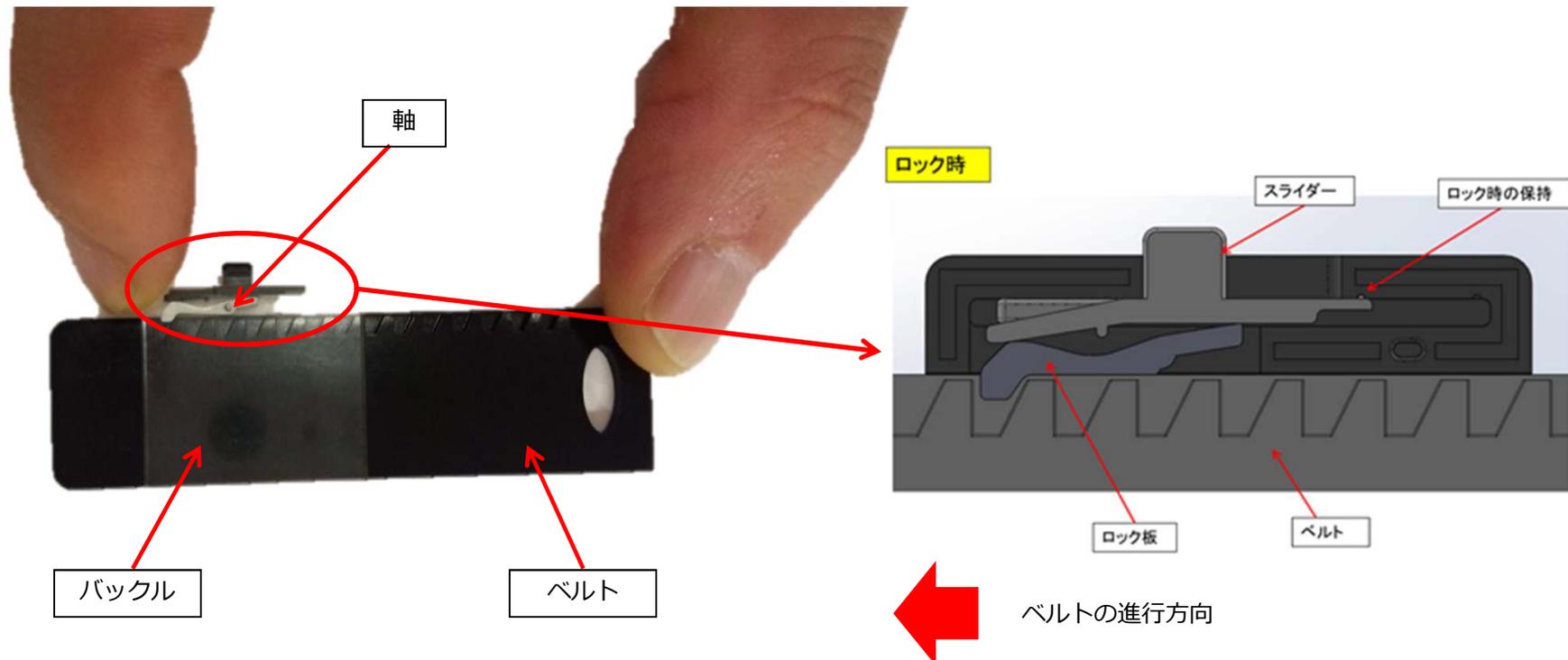
II. 試作例(シューズ)



I . FingerZip#3とは

1. 【必須】 FingerZip#3はバックルとベルトから構成されます。

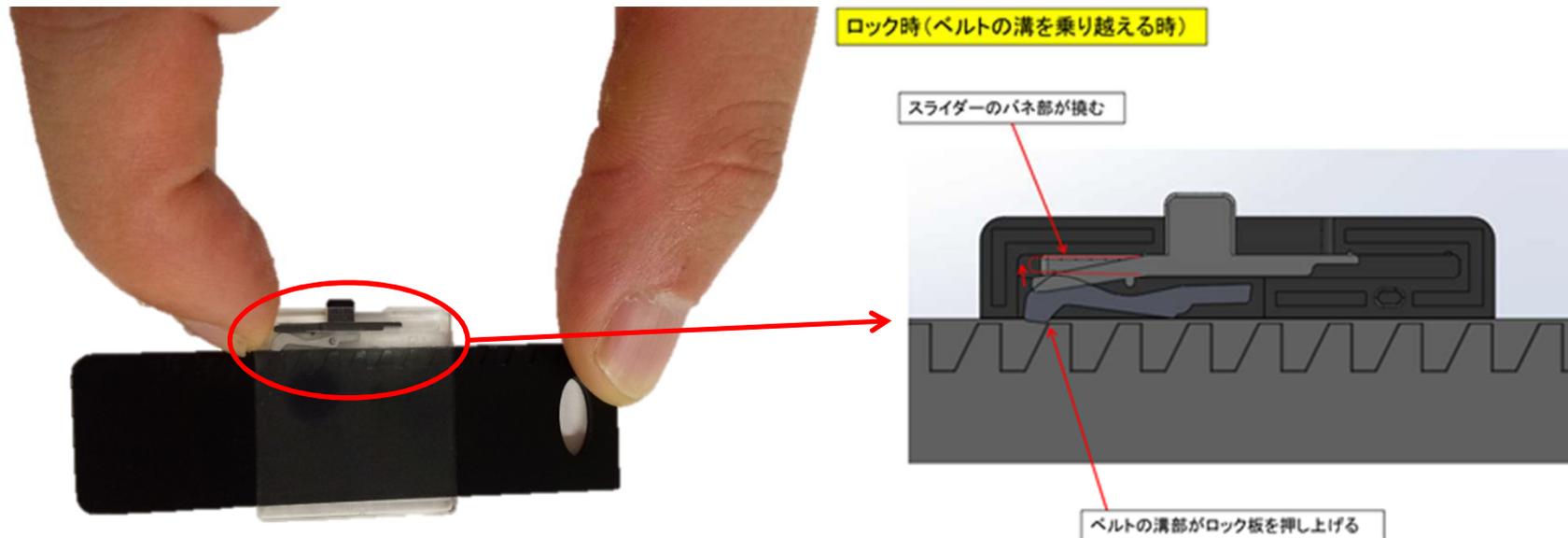
- ベルトには鋸歯状の溝部が形成されます。
- ベルトの溝部にバックルのロック板が係合し、この係合状態では、ベルトは一方向には進みますが反対方向には進みません。
- ベルトがバックル内を進む間、バックルのロック板は軸を中心としたシーソー運動をします。



I . FingerZip#3とは

2. 【必須】 ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けます。

ベルトとバックルを係合させるために、ロック板をベルト側に付勢する力が必要です。通常この種のアジャスターは、ロック板の軸にコイルバネを用いたり、軸のねじれを使ったりして付勢力を得ますが、FingerZip#3ではロック板の上部にバネ(板バネ)を設けることを特徴としています。



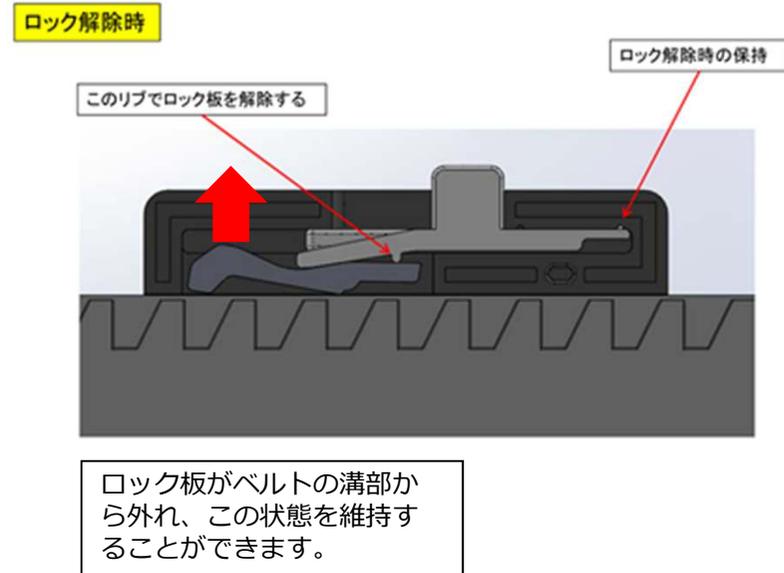
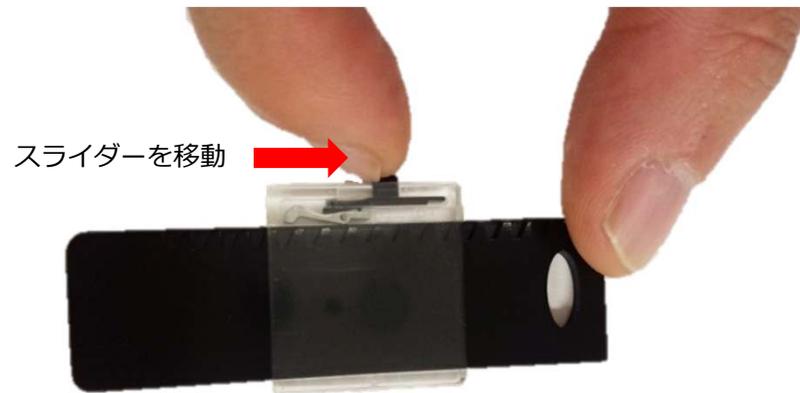
★なぜ、ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けるのか？

従来のアジャスターは、ロック板の軸のねじれを使って付勢力を得ていましたが、バックルを小型化するために軸を細くすると、軸が折れてしまうおそれがあります。軸を金属製にして強度を上げることも考えられますが、付勢力を得るためにコイルバネを用いる必要があり、そのため、小型化が図れません。そこで、小型かつ強度のあるアジャスターを実現するために、ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けることとしたのです。

I . FingerZip#3とは

3. 【任意】 バネをスライド移動可能なスライダーとして設ければ、スライダーを移動することにより、ロックと解除をかんたんに切り替えることが可能となります。

スライダーを移動して解除状態を維持することができるので、片手の指先で簡単にバンドをバックルから引き抜くことができます。



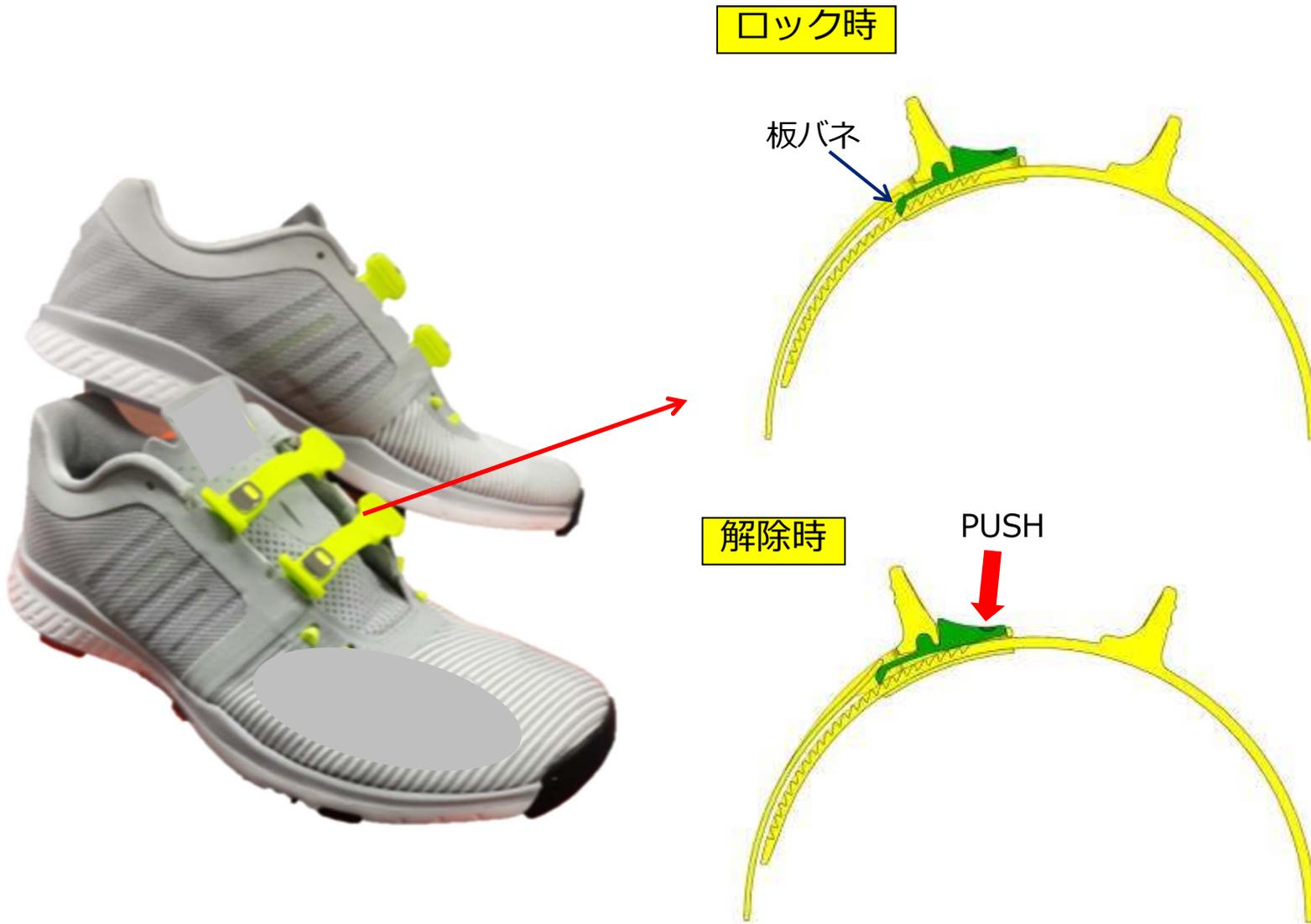
II. 試作例(時計)



スライダーを移動してロックと解除を切り替える。



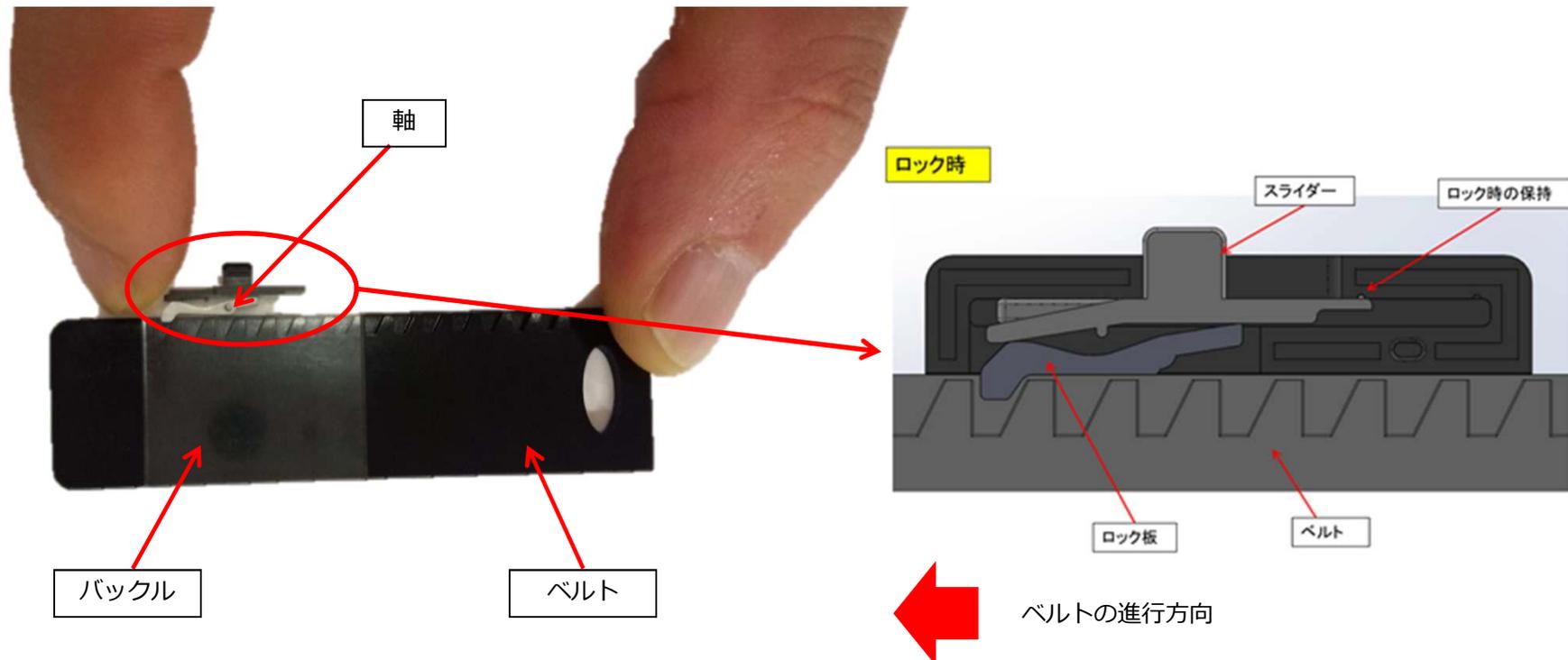
II. 試作例(シューズ)



I . FingerZip#3とは

1. 【必須】 FingerZip#3はバックルとベルトから構成されます。

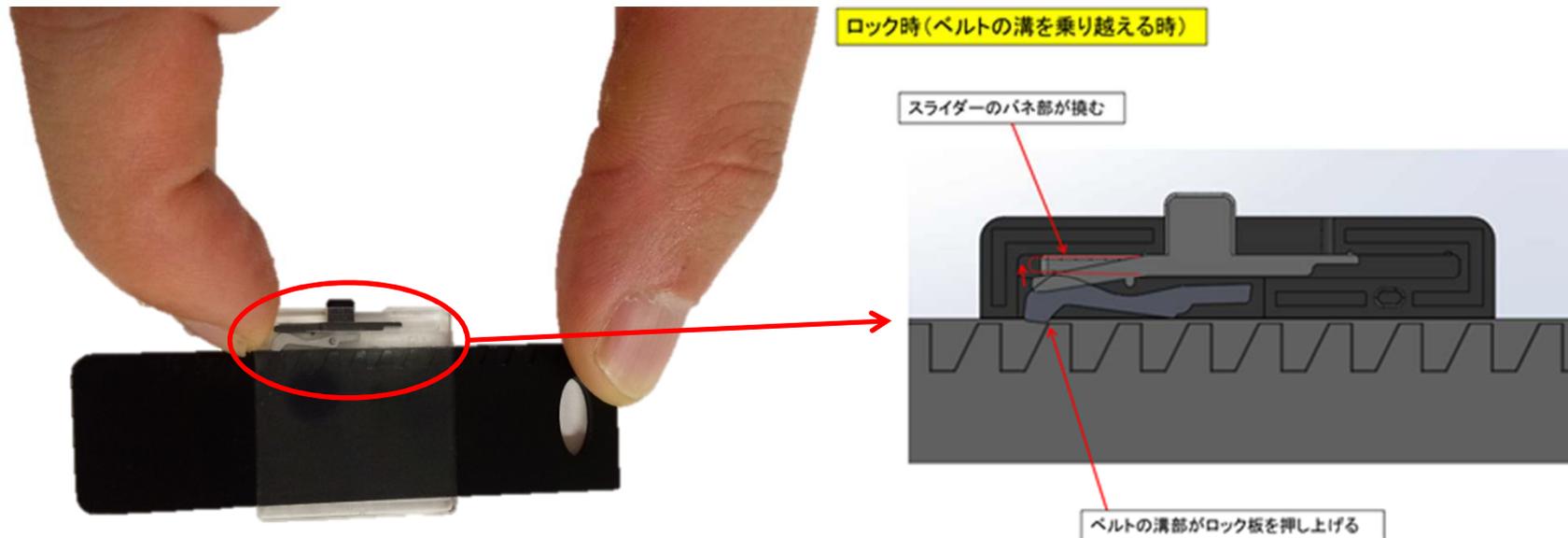
- ベルトには鋸歯状の溝部が形成されます。
- ベルトの溝部にバックルのロック板が係合し、この係合状態では、ベルトは一方向には進みますが反対方向には進みません。
- ベルトがバックル内を進む間、バックルのロック板は軸を中心としたシーソー運動をします。



I . FingerZip#3とは

2. 【必須】 ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けます。

ベルトとバックルを係合させるために、ロック板をベルト側に付勢する力が必要です。通常この種のアジャスターは、ロック板の軸にコイルバネを用いたり、軸のねじれを使ったりして付勢力を得ますが、FingerZip#3ではロック板の上部にバネ(板バネ)を設けることを特徴としています。



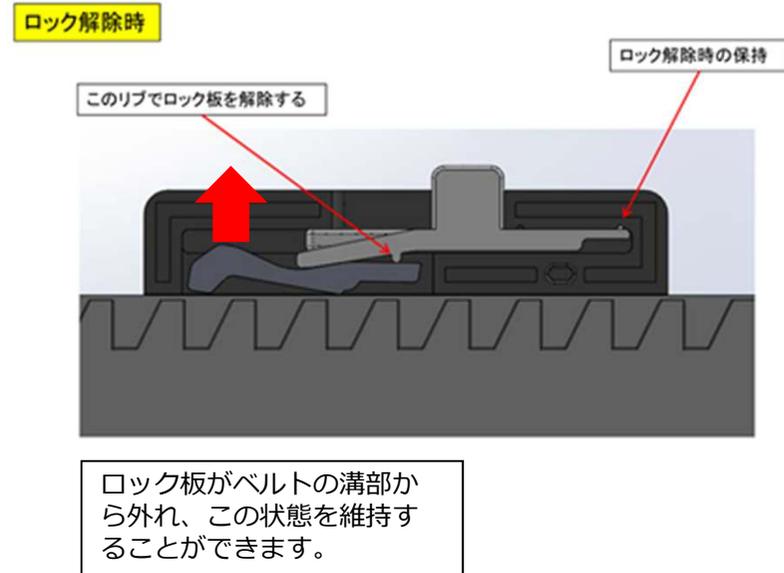
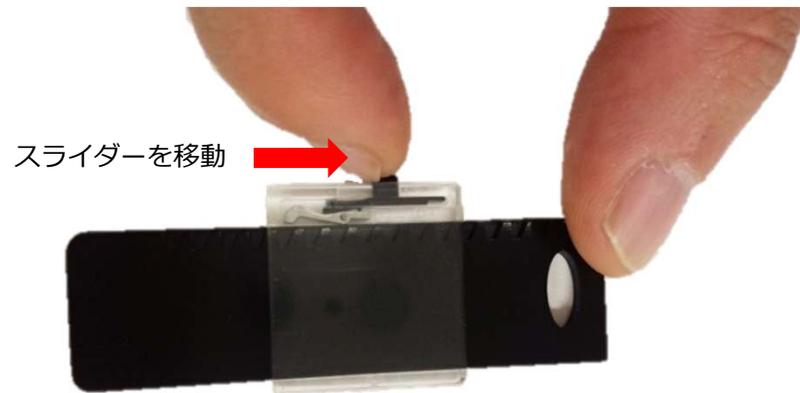
★なぜ、ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けるのか？

従来のアジャスターは、ロック板の軸のねじれを使って付勢力を得ていましたが、バックルを小型化するために軸を細くすると、軸が折れてしまうおそれがあります。軸を金属製にして強度を上げることも考えられますが、付勢力を得るためにコイルバネを用いる必要があり、そのため、小型化が図れません。そこで、小型かつ強度のあるアジャスターを実現するために、ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けることとしたのです。

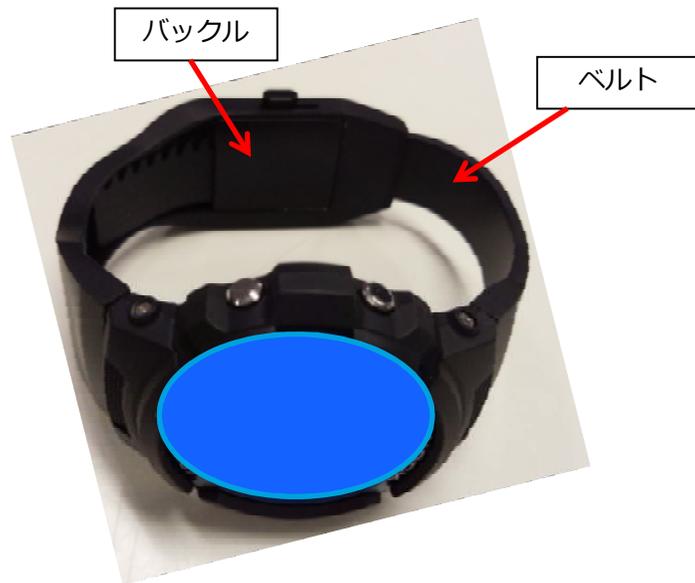
I . FingerZip#3とは

3. 【任意】 バネをスライド移動可能なスライダーとして設ければ、スライダーを移動することにより、ロックと解除をかんたんに切り替えることが可能となります。

スライダーを移動して解除状態を維持することができるので、片手の指先で簡単にバンドをバックルから引き抜くことができます。



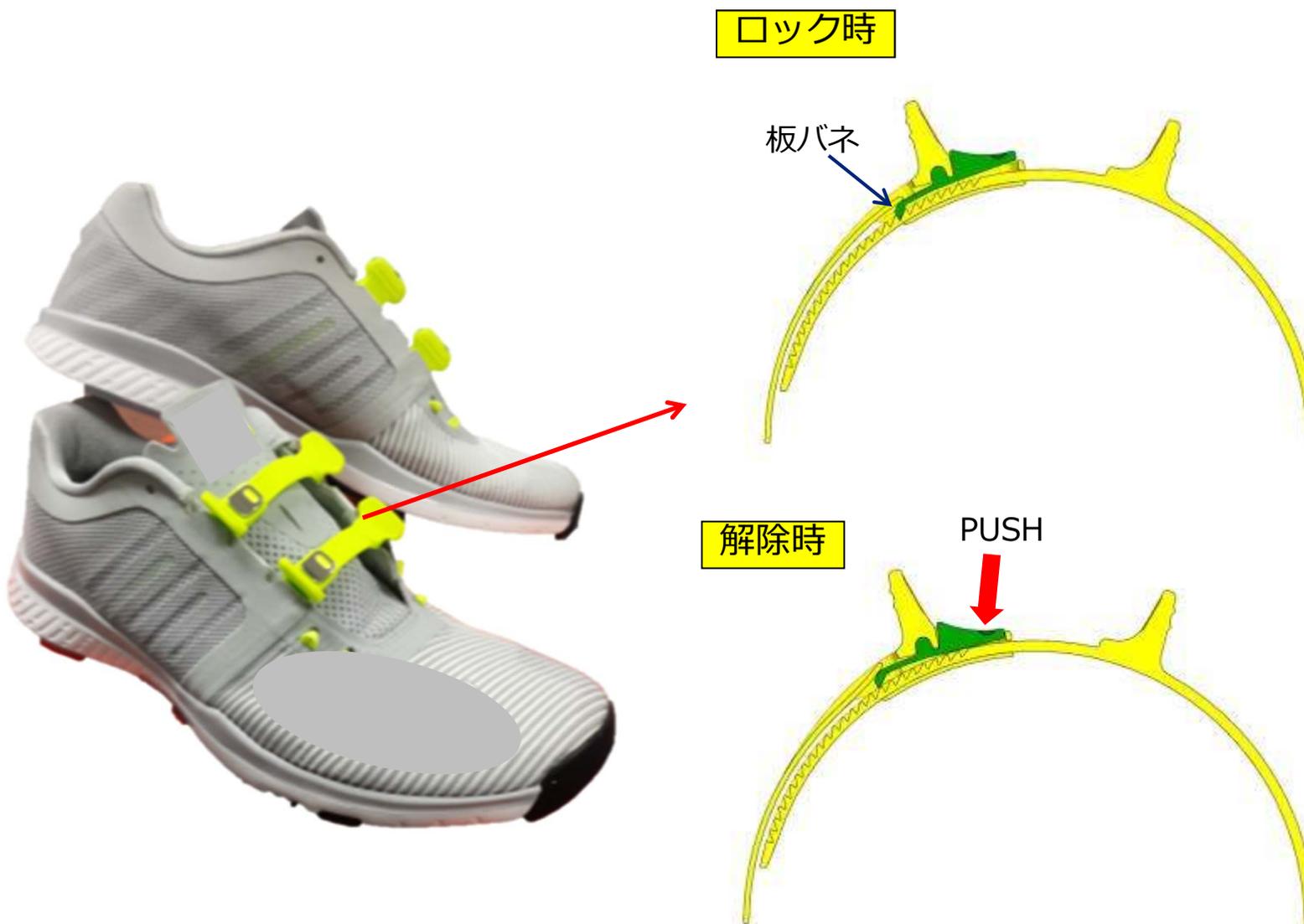
II. 試作例(時計)



スライダーを移動してロックと解除を切り替える。



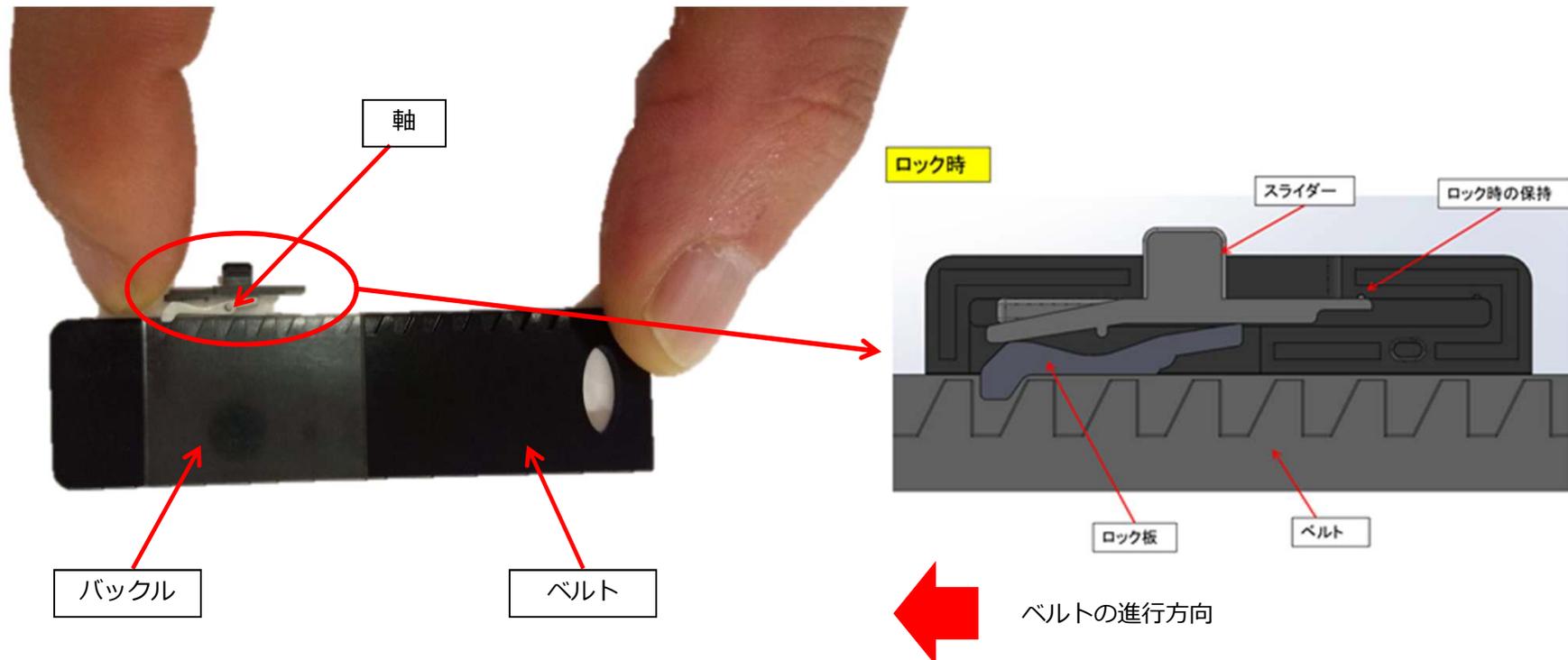
II. 試作例(シューズ)



I . FingerZip#3とは

1. 【必須】 FingerZip#3はバックルとベルトから構成されます。

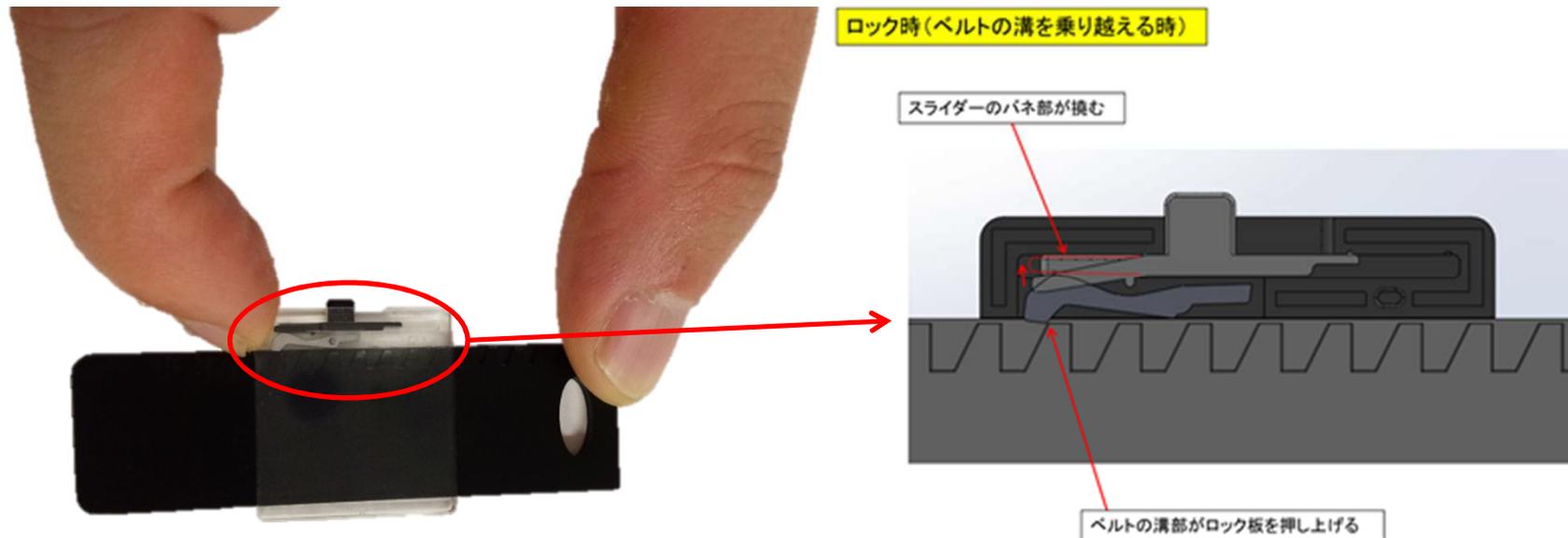
- ベルトには鋸歯状の溝部が形成されます。
- ベルトの溝部にバックルのロック板が係合し、この係合状態では、ベルトは一方向には進みますが反対方向には進みません。
- ベルトがバックル内を進む間、バックルのロック板は軸を中心としたシーソー運動をします。



I . FingerZip#3とは

2. 【必須】 ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けます。

ベルトとバックルを係合させるために、ロック板をベルト側に付勢する力が必要です。通常この種のアジャスターは、ロック板の軸にコイルバネを用いたり、軸のねじれを使ったりして付勢力を得ますが、FingerZip#3ではロック板の上部にバネ(板バネ)を設けることを特徴としています。



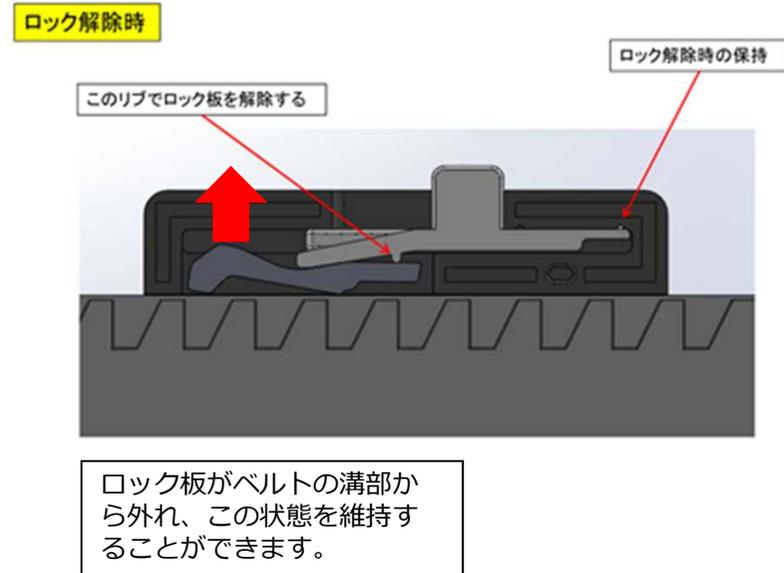
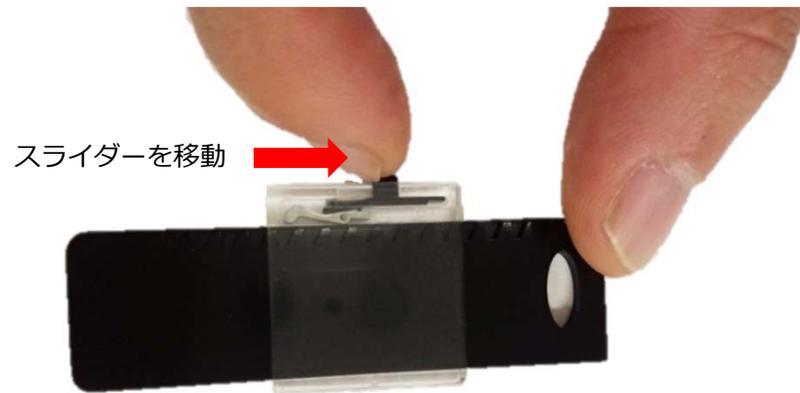
★なぜ、ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けるのか？

従来のアジャスターは、ロック板の軸のねじれを使って付勢力を得ていましたが、バックルを小型化するために軸を細くすると、軸が折れてしまうおそれがあります。軸を金属製にして強度を上げることも考えられますが、付勢力を得るためにコイルバネを用いる必要があり、そのため、小型化が図れません。そこで、小型かつ強度のあるアジャスターを実現するために、ロック板の上部にバネ(板バネ)を設けることとしたのです。

I . FingerZip#3とは

3. 【任意】 バネをスライド移動可能なスライダーとして設ければ、スライダーを移動することにより、ロックと解除をかんたんに切り替えることが可能となります。

スライダーを移動して解除状態を維持することができるので、片手の指先で簡単にバンドをバックルから引き抜くことができます。



II. 試作例(時計)



II. 試作例(シューズ)

